

自然・文化人類学

責任者・コーディネーター	生物学科 松政 正俊 教授		
担当講座・学科(分野)	生物学科、解剖学講座細胞生物学分野、法医学講座、 共通教育センター		
担当教員	松政 正俊 教授、佐藤 洋一 教授、出羽 厚二 教授、 松前 もゆる 非常勤講師、安達 登 非常勤講師		
対象学年	第1学年	期間	前期
区分	講義	時間数	21時間

■ 学習方針（講義概要等）

大学初年次には、多様な現象、ものの見方、考え方を知ることが肝要である。人類学は人類に関する総合的な学問領域であり、「ヒト」を自然科学的な視点から考える自然人類学、ならびに「人間」の文化的・社会的側面を考える文化人類学・社会人類学を内包する。これらの各領域に関する知見が同一の科目で扱われることは少ないが、ヒト・人間を対象とする医療系学生が両者について学ぶことは意義あることと思われる。本科目では、自然人類学の諸側面および文化人類学の初歩を学ぶ。

■ 一般目標（GIO）

自然人類学の諸側面および文化人類学の初歩を学ぶことにより、ヒト・人間についての理解を深め、医療人に要求される多様なものの見方を身につける。

■ 到達目標（SBO）

1. 自然人類学とは、どのような学問領域か説明できる。
2. 自然人類学と生物学との関係を概説できる。
3. 人骨の特徴から人類をながめて分類するという方法を知り、その妥当性について考察できる。
4. DNA 多型性とは何か説明できる。
5. Y 染色体 DNA とミトコンドリア DNA の特異性を説明できる。
6. 文化人類学とは、どのような学問領域か説明できる。
文化人類学における「文化」の意味を概説できる。
7. 身の回りの分類や分割と文化・社会との関わりを概説できる。
8. 通過儀礼とは何か、その特徴や意味を説明できる。
9. 「子ども」と「大人」という区分と、文化や社会との関わりを概説できる。
10. 性別と文化・社会との関わりを理解し、概説できる。
11. 性別分業の多様性と時代による変化を理解し、概説できる。
12. 身体と文化・社会が関わる側面（身体技法や身体観）について概説できる。

13. 「病気」や「障害」のとらえ方と文化・社会との関わりを概説できる。
 14. 「誕生」や「死」のとらえ方と文化・社会との関わりを概説できる。
 15. 医療と人類学の知見の関わる場所を知り、概説できる。

■ 講義日

【(矢) 西 1-A 講義室】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/17	水	2	生物学科	松政教授	人類学と生物学
4/24	水	2	解剖学講座 共通教育センター	佐藤(洋)教授 松政教授	骨から見た人類
5/1	水	2	共通教育センター 共通教育センター	松前非常勤講師 松政教授	文化人類学とは
5/8	水	2	法医学講座 共通教育センター	出羽教授 松政教授	Y染色体 DNA 多型からみた人類学
5/15	水	2	法医学講座 法医学講座 共通教育センター	安達非常勤講師 出羽教授 松政教授	ミトコンドリア DNA 多型からみた人類学
5/22	水	2	共通教育センター	松前非常勤講師	分類と文化・社会
5/29	水	2	共通教育センター	松前非常勤講師	人生と通過儀礼
6/5	水	2	共通教育センター	松前非常勤講師	「子ども」と「大人」
6/19	水	2	共通教育センター	松前非常勤講師	「男」と「女」
6/26	水	2	共通教育センター	松前非常勤講師	性別分業の多様性
7/3	水	2	共通教育センター	松前非常勤講師	身体と文化・社会
7/10	水	2	共通教育センター	松前非常勤講師	「病気」と文化・社会
7/17	水	2	共通教育センター	松前非常勤講師	「生」と「死」と文化
8/21	水	2	共通教育センター	松前非常勤講師	医療と人類学

■ 教科書・参考書

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	精神と自然—生きた世界の認識 論 改訂版	グレゴリー・ベイトソン (佐藤良明 訳)	新思索社	2001
参	精神の生態学 改訂第2版	グレゴリー・ベイトソン (佐藤良明 訳)	新思索社	2001

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	文化人類学 (第3版)	波平恵美子編	医学書院	2011
参	みんなが手話で話した島	ノーラ・エレングロース (佐野正信訳)	築地書館	1991
参	文化としての生殖技術—不妊治療にたずさわる医師の語り	柘植あづみ	松籟社	1999
推	隠喩としての病い エイズとその隠喩	スーザン・ソントグ (富山太佳夫訳)	みすず書房	1992 2012
推	アダムの呪い	ブライアン・サイクス (大野昌子訳)	ヴィレッジブックス	2006
推	イブの7人の娘たち	ブライアン・サイクス (大野昌子訳)	ヴィレッジブックス	2006

■ 成績評価方法

出席 (10%) とレスポンスカード (90%) により評価する。

■ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン (Mac Mini MC270J/A)	1	講義資料作成・保管、他
講義	複合機一式 (Canon・Image Runner iR2230F)	1	講義・実習等の資料印刷